

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 781 号 令和 8 年 6 月

目次

○令和 8 年度第 41 回世界獣医師会大会 (WVAC) 出席報告 (会長理事)	1
○令和 7 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会出席報告 (副会長理事)	5
○令和 8 年度第 1 回理事会開催報告 (常務理事)	8
○支部総会開催報告 (岩柳支部 防府支部 山口支部 宇部支部)	9
○支部長就任のご挨拶 (長北支部)	11
○支部投稿 (県庁支部)	11
○リレー随筆 (徳山支部)	12
○愛玩動物看護師試験等案内	13
○第 62 回山口県獣医学会開催案内 ※開催要領は 7 月号に掲載	15
○事務局だより	15

令和 8 年度第 41 回世界獣医師会大会(WVAC) 出席報告

会長理事 中 村 滋

開会式に天皇・皇后両陛下・愛子内親王殿下をお迎えし、令和 8 年 4 月 21 日から 24 日に東京国際フォーラムで開催された「第 41 回世界獣医師会大会 (以下、WVAC)」に出席したので、下記にその概要を報告する。

本大会は日本獣医師会の主催で、日本学術会議が共催し、獣医学に関する最新の知見や研究、技術を共有し、国際的ネットワークを構築することを目的とするもので、日本での開催は 31 年振り。

また、日本獣医師会 地区学会長賞受賞講演をメインに開催する「令和 7 年度年次大会」が、WVAC との合同開催となったことから、今大会の主たる contents は、以下のとおり。

- **Official Event** (1. 開会式、2. 基調講演、3. Official Dinner、4. 閉会式等)
- **WVAC Sessions** (世界獣医師会大会)
- **JVMA Annual Sessions** (日本獣医師会 年次大会)

他に **Special・Sponsored Sessions、市民講座等** からなるが、本報告は、開会式、基調講演、Official

Dinner、閉会式、Special Session の一部を中心とする。なお、参加国・地域、出席者数 (速報値)、大会テーマは主催者が挨拶内で披露した。

○ **Official Event**

1. **開会式** 4 月 21 日 (火) 10 時～11 時

スピーチ順におことばや挨拶の概要を記す。

なお、天皇・皇后両陛下のご臨席、おことばに対する謝意は主催者並びに全ご来賓の挨拶・スピーチ内に、主たるご来賓への出席御礼は主催者側 3 名の挨拶に含まれたが、ここでは藏内会長のスピーチ内のみ記す。

(1) **藏内 勇夫 日本獣医師会会長 (大会会長)**

天皇・皇后両陛下のご臨席、及び麻生太郎元内閣総理大臣やエマニュエル・スベラン WOAH (国際獣疫事務局) 事務局長をはじめとする来賓の出席に対する謝意を述べられた後、英語による次のスピーチがなされた。

「1995 年の横浜大会は震災直後ながら関係者の団

結で成功した。現在は感染症や環境問題などの危機に直面しており、次世代へ美しい地球を引き継ぐにはワンヘルス（人と動物、環境の健康を一体と捉える理念）による社会変革が不可欠である。今大会は「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」をテーマに、世界約70の国や地域から約6,000人の専門家らが参加して開催される。次世代への地球環境継承に向けて、公開講座などを通じ一般市民との繋がりを生み出し、専門家の研鑽とともにワンヘルスの理念が社会全体へ広がることを祈念する。」

続いて、共催団体である光石 衛 日本学術会議会長（共催団体長）、John de Jong 世界獣医師会会長、高市 早苗 内閣総理大臣（英語のメッセージを司会者が代読）のご挨拶の後に、天皇陛下より英語でおことばを賜りました。

（2）天皇陛下のおことば

3匹の保護犬と4匹の保護猫などと生活を共にし、多くの喜びや癒しを享受されたご経験に触れられ「動物たちの健康を守り、命を救う獣医師の仕事に深く感銘を受けています」のおことばを賜りました。また、「人と動物の健康、環境の健全性を一体としてとらえるワンヘルスの実践は、社会全体のリスクを軽減する力となり、その役割は国家や学問分野の枠組みを超え、ますます重要なものになってくるものと思われまます。」

今回の大会が世界の獣医師や様々な分野の専門家が、それぞれの知見を共有する機会となり、人と動物がよりよく共生できる社会の実現に繋がることを期待します」と結ばれました。

その後、小野田 美紀 内閣府特命大臣（鈴木 隼人 副大臣が代読）、鈴木 憲和 農林水産大臣、また、小池百合子 東京都知事からは英語でご挨拶をいただきました。

2. 基調講演 4月21日(火) 11時

開会式に続き、北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所の喜田 宏 特別招聘教授による「One Healthアプローチによるパンデミック・インフルエンザの

理解と対策」と題した基調講演が行われ、天皇陛下ご一家も熱心にご聴講された。講演の要旨は以下の通りである。

- ・パンデミックの脅威：インフルエンザは人獣共通感染症であり、鳥インフルエンザとヒトの季節性インフルエンザウイルスの遺伝子分節が再集合することで、ヒトが免疫を持たない新型ウイルスが出現し、世界的なパンデミックを引き起こす恐れがある。
- ・ワンヘルスによる備え：将来の発生に備え、One Healthアプローチのもとで鳥類、哺乳動物、ヒトのインフルエンザウイルスを一元的に監視（サーベイランス）することが極めて重要である。
- ・研究資産の活用：北海道大学が収蔵するウイルス株を継続的に更新・維持し、診断やワクチン製造に直接活用していく戦略が示された。これらは半世紀にわたるウイルスの生態研究成果に基づくものである。

3. Official Dinner 4月23日(木) 18時30分

2時間程度のDinnerの冒頭に、藏内会長、麻生元総理大臣、林 芳正 総務大臣、小池東京都知事をはじめとする多くの主催者・ご来賓が、大ホールに入りきれないほどの国内外からの参加者（招待者数600名、小職は県獣医師会会長枠で参加）に対し、英語で歓迎の挨拶を述べられた。その後に、参加者間の交流が図られ、新たな出会いにも恵まれたが、参加人数の割に時間が短い交流会であった。

4. 閉会式 4月24日(金) 12時30分

壇上には、藏内 勇夫 世界獣医師会会長（2026-2028期）、John de Jong 前世界獣医師会会長（2024-2026期）、ラファエル・ラガンズ 元世界獣医師会長（2022-2024期）、次回大会の開催国メキシコ獣医師会のグスタボ・モレノ 会長、栗本 まさ子 日本獣医師会副会長、小林 文子 FAVAワンヘルス福岡オフィス事務局長が登壇され、栗本副会長が、世界獣医師会（WVA）評議員会において正式に合意・採択された「WVAワンヘルス東京宣言2026」（次頁に全文を掲載）を読み上げられ、参加者からは万雷の拍手を得て、本宣言が共有されました。その後、藏

内会長よりメキシコ獣医師会モレノ会長へWVACの会旗が受け渡され、4日間にわたる本大会は惜しまれながら閉幕した。

○ **世界獣医師会総会** 4月21日(火) 午後

藏内 勇夫 日本獣医師会会長が、日本人初の世界獣医師会会長（任期2年間）に就任された。

○ **WVAC Sessions** 4月21日(火) 13時～24日(金)12時

概要は、開会式においてJohn de Jong世界獣医師会長(開会式時)の挨拶で触れられたとおり、大会資料を確認すると7つのプログラム (①cutting edge clinical medicine for companion animals ②Vector-borne diseases ③Well-being of small Animals ④WVA One Health Summit ⑤Advance Fluid Therapy in Bovine Practice ⑥Challenges to Veterinary Education Reform ⑦One Health for a changing World) を7会場で4日間開催し、国内外から多くの研究発表が行われた。

○ **Special Session** 4月21日(火) 15時

石田 卓夫 アジア小動物獣医師会 (FASAVA) 会長が座長となり「伴侶動物医療の未来」をテーマに、近未来に実用化され、常識的な動物医療となるであろう獣医学の技術について、山口大学 水野 拓也 教授の「獣医腫瘍学における抗体治療時代の到来」など

9題の講演が行われた後に、パネルディスカッションが開催された。

○ **考察、所感**

「WVAワンヘルス東京宣言2026」では、人・動物・環境の健康を一体と捉える「ワンヘルス」の理念が、現代社会の課題解決における基本原則とされました。これらの課題は、国境を越えて横断的に取り組むべきものと、足元の地域から発信すべきものに大別されると考えます。

本会の会員各位が多様な業務を通じて得た異なる視点や知見を講習会などで共有し、地域で起こり得る課題を予測し、解決のシミュレーションを描き備えるため、会員の皆様の引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

今回の世界獣医師会大会は、最新の知見や技術を共有し、国際的ネットワークを構築する貴重な場となりました。同時に、次世代を担う獣医師にとっては、近未来の姿が想像できる、非常に刺激的で価値ある東京大会であったと考えます。

結びに、個人や小さな組織では、開催できない本大会を成功裏に収められた(公社)日本獣医師会役員並びに関係する全ての皆様のご尽力に対して衷心より敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。



天皇陛下のおことば



藏内新世界獣医師会会長と

第41回世界獣医師会（WVA）大会（WVAC 東京大会）

WVA ワンヘルス東京宣言 2026

人、動物及び環境は、この地球という共通の生態系の中で相互に依存し、しかも不可分の関係にある。人・動物・環境の健康を一体として捉える「ワンヘルス」の理念は、現代社会が直面する複合的課題に対応するための基本原則である。

人獣共通感染症の発生・再発生、薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）の拡大、気候変動及び自然災害に伴う健康危機、並びに食料安全保障の課題は、国境を越えて相互に影響し合っている。これらに対処するためには、医療、獣医療、環境及びそれらの学術研究、さらには行政及び市民社会が連携し、科学的根拠に基づく取組を推進することが不可欠である。

人・動物・環境の健全性の確保は、今日の国・地域を超えた共通する責務である。私たちは、2016年福岡宣言及び2022年アジア・ワンヘルス福岡宣言の精神を継承し、東京において以下の理念を共有するとともに、地域社会との連携を基盤とし、国際社会と調和した対話と協働を通じて、持続可能で平和な未来を次世代へ引き継ぐ責務を共有することを、ここに「ワンヘルス東京宣言 2026」として宣言する。

基本理念

1. 人・動物・環境の健康を不可分のものとして統合的に捉え、地域政策及びその実践を重視して取り組むこととする。
2. 医師、獣医師、学術研究機関、行政機関及び市民社会の分野横断的な協働、並びに国際的な連携を推進する。
3. 人獣共通感染症及び薬剤耐性（AMR）対策において情報共有と国際協力を強化しつつ、責任ある抗菌薬の使用、監視体制の強化及び研究開発を推進する。
4. ワンヘルスの理念を教育に組み込み、次世代を担う人材の育成を図る。
5. 生物多様性の保全及び環境の健全性を重視し、持続可能な社会基盤の構築に貢献する。
6. 公衆衛生、動物衛生及び環境保全分野の緊急的な取組においては、関係機関と連携し、迅速かつ科学的根拠に基づいた対応を行う。

令和7年度日本獣医師会学術学会年次大会に参加して

副会長理事 白 永 伸 行

令和8年4月21日から24日にかけて、東京国際フォーラムにおいて「第41回世界獣医師会大会2026 東京大会（WVAC2026）」が開催され、同会期中に「第43回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和7年度）」が合同開催されました。WVACの日本開催は1995年横浜大会以来31年ぶりであり、国内外から多数の獣医師、研究者、行政関係者、関連企業等が参加する国際的な学術大会でした。

大会全体では、One Health、伴侶動物医療、産業動物医療、公衆衛生、感染症、薬剤耐性（AMR）、災害時医療等、多岐にわたるテーマが取り上げられたが、特に、獣医師が人・動物・環境の健康を一体として捉えるOne Healthの実践主体であることが、各企画を通じて強調されていました。

WVAC2026の開会式では、関係者挨拶、来賓祝辞等が行われ、国際大会としての格式を備えた運営でした。特に前回日本開催に引き続き、天皇陛下のご臨席を賜ったことがこの学会の重要度を象徴するかの如くでありました。併催された日本獣医師会獣医学術学会年次大会では、各分野の地区学会長賞受賞講演、獣医学術奨励賞受賞者記念講演、教育講演、シンポジウムが企画され、国内の臨床現場・行政・研究の成果が広く共有されました。そこで小職から日本獣医師会年次大会の参加報告をいたします。

1 日本獣医師会獣医学術学会年次大会の主な内容

日本獣医師会獣医学術学会年次大会では、日本産業動物獣医学会、日本小動物獣医学会、日本獣医公衆衛生学会の各領域で、地区学会長賞受賞講演が実施されました。各講演は、地域の臨床・公衆衛生・家畜衛生の現場から得られた知見を全国に共有する場にあります。

・日本産業動物獣医学会では、豚熱ワクチン、牛伝染性リンパ腫、ランピースキン病、サルモネラ、牛・馬の臨床症例、蹄疾患等、家畜衛生と産業動物臨床の両面に関する発表が行われました。

・日本小動物獣医学会では、SFTSの猫症例、猫伝染性腹膜炎、心疾患、神経疾患、眼科、腫瘍、整形、狂犬病ワクチン接種状況等、日常診療から高度医療まで幅広い演題が発表されました。

・日本獣医公衆衛生学会では、マダニ媒介感染症、SFTSウイルス、オズウイルス、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌、Corynebacterium ulcerans、薬剤

耐性菌等、人獣共通感染症及び食品衛生に関する演題が取り上げられました。

これらの演題を通じ、地域の現場で得られた症例・調査・行政対応が、全国的な課題や今後の制度設計と密接に関係していることを改めて確認しました。

2 特別企画及びシンポジウムの概要

特別企画として、産業動物分野では「豚群における繁殖管理、衛生管理とAMR対策」「乳牛群における繁殖管理と生産支援」「肉牛群における呼吸器疾患対策」が実施され、農場単位での管理、疾病予防、薬剤耐性対策、超音波検査やワクチネーション等の実践的知見が共有されました。

小動物分野では、「チーム獣医療—肥満の動物を考える」、教育講演「失敗しない外科手術シリーズ前十字靭帯断裂」、シンポジウム「動物の口腔内黒色腫（メラノーマ）の治療を考える」等が開催されました。愛玩動物看護師を含むチーム医療、外科・腫瘍・眼科など高度化する伴侶動物医療の課題が具体的に示されました。

公衆衛生分野では、教育講演「忘れないで！狂犬病」、シンポジウム「注目されつつある食中毒の病因物質」「牛肉輸出から見えてきたもの」「ヒトに密接に関与する野生鳥獣の現状と課題」等が開催されました。狂犬病、食中毒、野生鳥獣、ジビエ、マダニ媒介感染症等、獣医師が社会防衛・公衆衛生上担うべき役割が明確に示されました。

3 人獣共通感染症シンポジウムについて

特に重要な企画として、日本小動物獣医学会においてシンポジウム「人獣共通感染症—病院スタッフと飼い主を感染症から守るためにはどうすれば良いか？—」が開催されました。同企画は、SFTS、レプトスピラ症、その他身近で危険な人獣共通感染症を連続して扱う構成であり、伴侶動物診療現場と人の医療・公衆衛生との接点を明確にする内容でした。

午前の「SFTSシンポジウム—増加する動物病院スタッフの感染・飼い主の感染を防ぐには—」では、国立感染症研究所、宮崎県立宮崎病院、流行地の動物病院等から講演が行われ、SFTSの実態、感染性物質の輸送、流行地でのヒト感染、動物から人への感染事例、動物診療現場での対応が議論されました。小職もパネリストの一人として「流行地での動物感

染現場での対応と今後を考える」として登壇し、初発地となった山口県内の臨床現場での経験、疑い症例対応、スタッフ防護、飼い主への説明、院内動線管理、地域連携の必要性について報告しました。

午後には「レプトスピラ症シンポジウムー我が国で増加しているレプトスピラ症の今後を考えるー」が開催され、ヒトのレプトスピラ症、沖縄県における犬レプトスピラ症の現状、検査とワクチンの今後について講演がありました。さらに「身近で危険な人獣共通感染症シンポジウムー感染症から身を守るにはー」では、咬傷・接触感染症、クラミジア属感染症、獣医病理学の観点から懸念される人獣共通感染症について議論されました。

一連の企画を通じて、伴侶動物診療は単に動物の治療にとどまらず、動物病院スタッフ、飼い主、地域住民を感染症から守る公衆衛生上の最前線であることが再確認され、特にSFTSのように地域差が大きく、かつ重篤な人感染につながり得る疾患では、臨床現場での早期疑い、検査体制、PPE、曝露後対応、行政・医療機関との連携が不可欠であると実感しました。

4 大会参加により得られた知見

- ・SFTS、レプトスピラ症、狂犬病、咬傷関連感染症など、伴侶動物診療と人の健康が直接接続する領域では、獣医師の初動対応が地域の感染症対策に大きく影響する。
- ・特に小動物学会地区学会賞の講演で、狂犬病の若齢犬における抗体保有率に関する重大な報告があり、今後の狂犬病予防事業において深く考えるものであった。
- ・動物病院における感染対策は、単なる院内マニュアルではなく、受付時の聞き取り、診察順、待合管理、検体輸送、スタッフ教育、飼い主説明、曝露時の連絡体制まで含めた実務設計として捉える必要がある。
- ・公衆衛生分野の演題では、マダニ媒介感染症、薬剤耐性菌、食中毒、野生鳥獣由来リスクなど、地域獣医師会が行政・大学・医師会等と連携すべき課題が多く示された。
- ・小動物臨床分野では、腫瘍、眼科、外科、神経、循環器など高度医療の発展とともに、一般診療施設と二次診療施設との役割分担、紹介連携、飼い主への情報提供の重要性を再認識した。
- ・産業動物分野の発表からは、農場単位での疾病管理、AMR対策、ワクチン戦略、衛生管理が、食品安

全と地域産業の維持に直結することが示された。

5 所感

今回の大会は、国内学術大会でありながら世界獣医師会大会と合同開催されたことにより、国際的視野と国内現場の課題が同時に提示される貴重な機会となりました。One Healthは抽象的な理念として語られることも多いが、本大会ではSFTS、狂犬病、レプトスピラ症、食中毒、野生鳥獣、AMR等の具体的な課題を通じ、獣医師が人の医療、公衆衛生、行政、地域社会とどのように接続すべきかが実践的に示されており、獣医師における3職域が集う幅広い議論と交流が行える大事な学会だと再確認しました。

小職にとっては、特にSFTSシンポジウムにおいて、流行地の臨床現場からの実務経験を全国の参加者と共有できた意義は大きいと実感しました。山口県は鳥インフルエンザやSFTSの初発地域として早期から課題に直面してきた地域であり、我が国における人獣共通感染症の防疫に大事な場所だと自他共に認識しています。当獣医師会がこれまでの経験を全国の伴侶動物診療施設のリスク管理に活かすことは、今後の県獣医師会活動としても重要だと考えます。今後は、SFTSをはじめとする人獣共通感染症への対応、狂犬病予防注射事業、学校飼育動物・動物愛護事業、公衆衛生活動を、地域の実情に即して継続的に推進する必要があります。また、医師会、大学、行政、関連団体との連携をさらに強化し、診療現場が孤立しない体制づくりを進めることも重要と思いました。

企業展示では、最新の検査機器、診断装置、動物用医薬品、感染対策関連製品等が多数紹介されており、近年の獣医療技術の進歩を実感しました。また、愛玩動物看護師や学生の参加も多く見られ、獣医療を取り巻く職域の広がりや社会的関心の高まりも感じました。

懇親会は第3日目終了後、学会会場にて行われ、国際学会に相応しく、来賓や祝辞も多くの政治家の方々から賜り、中村会長と共に各方面にご挨拶をしました。

今回の学会参加は人数や日程など世界大会と共催する上でやむを得ず厳しいものでありましたが、イベントの盛り上がりは、共催された「Thanks Buddy Project」での元AKBの前田敦子さんや、平昌五輪金メダリスト高木奈那さん、ミラノ五輪銀メダリスト鍵山優馬さんなどを招いて人と動物に関連する併設イベントも注目を集めました。今年度の次回開催は来年2月に麻布大学で開催の予定です。



SFTSシンポジウム登壇中の小職



Thanks Buddy Projectの大きな広告



SFTSシンポジウム登壇者 一番左は小職。右端には前山口大学共同獣医学部教授 前田健先生（国立感染症研究所 獣医科学部部长）



Thanks Buddy Projectにおける第1回ベストバディアワードを授与された前田敦子さんと東京都獣医師会上野弘道会長



福岡県知事による自治体のワンヘルスの取り組み



懇親会にて、片山さつき財務大臣を囲んで。左端が蔵内勇夫日本獣医師会会長。真ん中に小職が映り込む。

令和8年度第1回理事会開催報告

常務理事 柳 澤 郁 成

令和8年5月14日(木)13時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和8年度第1回理事会が開催されました。

理事13名中12名、監事3名中2名に出席いただき、中村滋会長から、平素からの会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の7件の議案について審議していただきました。(全て承認事項)

第1号議案 令和7年度事業報告及び決算について

第2号議案 令和8年度定時総会について

第3号議案 新規加入会員について

第4号議案 会員の休会について

第5号議案 支部長の交代について

第6号議案 職域部会及び委員会委員の交代について

第7号議案 令和8年度会長表彰(県獣、中獣連、日獣)について

第1号議案では、令和7年度事業報告及び決算について承認されました。

第2号議案では、令和8年度定時総会議案に、次の6件の議案を提出することについて承認されました。

- ①令和7年度事業報告について
- ②令和7年度決算について
- ③令和8年度事業計画書について
- ④令和8年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みに関する書類について
- ⑤令和8年度会費の額及び徴収方法について
- ⑥(公社)山口県獣医師会定款の一部改正について

第3号議案では、入会申込書の提出があった13名の新規入会について承認されました。

第4号議案では、届出があった1名の休会について承認されました。

第5号議案では、次の4支部の支部長の交代について承認されました。長年、円滑な支部運営にご尽力された前支部長の皆様に感謝申し上げます。(敬称略)

支 部	前支部長	新支部長
防 府	中 野 正 司	上 田 晋 平
宇 部	網 本 昭 輝	中 越 一 郎
長 北	大 田 悦 三	市 岡 貴 典
県 庁	吾 郷 英 昭	殿河内 英雄

第6号議案では、任期満了に伴う職域部会及び委員会委員の交代について承認されました。

第7号議案では、令和8年度の表彰候補として支部から推薦のあった、山口県獣医師会会長表彰候補3名、中国地区獣医師会連合会会長表彰候補5名、日本獣医師会会長表彰候補者1名について承認されました。

出席者から他の協議事項等の提案はなく、白永伸行副会長から、会議の円滑な進行への謝辞と定時総会開催時の協力を依頼し、会を閉じました。

【会報の公開範囲変更に関するお知らせ】

これまで本会ホームページでは会報を一般公開してまいりましたが、会員の皆様から気軽にご投稿いただけるよう、今号より公開範囲を変更いたします。本会の活動内容や全体へのお知らせ等は引き続き一般公開いたします。一方、個人情報への配慮から、リレー随筆や会員の近況報告等につきましては、原則として「会員専用ページ」での限定公開とさせていただきます(※一般公開をご希望される場合は、事前にお申し入れがあった場合のみ対応いたします)。これに伴い、過去の会報についても一般公開ページから削除いたします。会員の皆様のプライバシーを守るための対応となりますので、何卒ご理解とご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

5月に各支部において通常総会が開催されました。本号では、事務局に寄せられた開催報告の中から、岩柳・防府・山口・宇部の4支部について掲載します。また、5月8日（金）に萩市「高大」にて開催された長北支部通常総会において、新支部長に就任された市岡貴典先生のご挨拶も合わせてご紹介します。

令和8年度岩柳支部通常総会開催のご報告

岩柳支部 大黒屋 勉

(みさお動物病院)

2026年5月8日（金）に岩国市福祉会館で開催された、令和8年度岩柳支部通常総会についてご報告させていただきます。

当日は会員46名中21名（委任状21名）の先生方にご出席頂きました。また、来賓として山口県獣医師会様より柳澤郁成常務にご出席を賜りました。この場をお借りして感謝申し上げます。議案としては、2025年度の事業報告及び収支決算報告、2026年度の事業計画及び収支予算案など6つの議案が提出されました。議事は円滑に進行し、全ての議案が承認されました。加えて、本年度新規で入会された東部家畜診療所の梶岡春花先生に自己紹介をして頂きました。非常にフレッシュなご挨拶を賜り、新たな仲間を得る事は非常に喜ばしいことであると改めて感じた次第です。

会議終了後には市内の食事処「酒肴庵」にて懇親

会を開催し、和やかな雰囲気では会員同士の親睦を深める事が出来たと存じます。以上、岩柳支部総会のご報告とさせていただきます。



令和8年度防府支部通常総会のご報告

防府支部 豊川 剛

(とよかわ動物病院)

令和8年5月7日（木）に防府市の割烹 いちはなにおいて、15名の支部会員のうち9名の出席と、県獣医師会から中村 滋会長のご臨席をいただき、令和8年度山口県獣医師会防府支部通常総会および防府獣医師会通常総会が開催されました。

総会では、中野正司支部長のご挨拶からはじまり、続いて、中村 滋会長からのご祝辞を賜りました。その後、令和7年度の事業報告ならびに収支決算報告、令和8年度の事業計画・収支予算案等、役員改正について審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。

役員改正により、新たに上田晋平支部長、中野正司副支部長が就任されました。

総会後には懇親会を催し、中村 滋会長を含め10名の先生方にご参加いただきました。

事務局の私としては、ひとまず今年の一大会事を終えて胸を撫で下ろしつつ、美味しい食事と参加していただいた先生方との会話に癒された時間でした。

この1年たくさんの先生方に助けていただき、つつがなく支部総会および懇親会を開催することができましたことを、ご参加いただきました皆様および関係各位に改めてお礼申し上げます。



令和8年度山口支部通常総会の開催報告

山口支部 藤井 満 貴

令和8年5月8日（金）、山口市湯田温泉「防長苑」にて、令和8年度の山口支部通常総会を開催しました。

今年度も昨年と同じ94名の大所帯ですが、総会参加者は26名、委任状提出が59名と、参加者は余り多くありませんでした。

年度変わりにおける、転出者は9名、退会者は3名でしたが、他支部からの転入者が9名、新規入会者が3名あり、結果的に会員数は昨年と同様となっています。

開会宣言の後、支部長挨拶に続いて、本会理事である酒井前常務に会長挨拶を代読して頂き、例年通り支部長を議長に議事に入り、すべて議案について、全会一致で承認されました。

今年は任期2年の役員改選の年ではありませんでしたが、本会新常務理事の柳澤郁成先生に新たに支部の理事に加わって頂きました。

総会終了後、会場を2階に移し、内田和克先生の発声で懇親会に入りました。

懇親会では、新たに山口支部会員となられた岡田純子先生（現・山口市議会議員）から自己紹介を頂くなど、和気藹々の懇親会となりました。

宴の最後には、長年県獣会長としてご活躍された田中尚秋先生にご挨拶を頂いた後、田中先生の音頭により万歳を三唱して散会しました。



令和8年度宇部支部通常総会開催報告

宇部支部 中越 一郎

（なかこし動物病院）

令和8年5月8日（金）に開催された令和8年度支部通常総会について、ご報告させていただきます。

5月8日午後6時30分より宇部国際ホテルにおいて、支部会員39名中15名に出席いただき委任状22名を合わせて本会は成立致しました。

始めに網本昭輝支部長のご挨拶で開会となり、来賓としてご出席いただいた白水伸行副会長にご挨拶を賜りました。続いて議長に選任された村田智明先生の進行で各議案について採決が執り行われました。

審議事項として、第1号議案：令和7年度事業報告並びに事業収支計算書（決算）報告について、第2号議案：令和8年度事業計画（案）及び事業収支予算書（案）について、第3号議案：役員改選の件について、以上全ての議案が満場一致で採決されました。

また報告事項として、令和8年度会費の徴収方法・会長表彰者の件・会員の移動・県獣医師会の部会ならびに委員会の委員について報告を受けました。

総会終了後は同ホテルで懇親会が行われ、会員の移動もあったことから、各先生方には自己紹介をしていただきました。その後、歓談となり、普段あまりお話をする機会が無い先生方との交流や色々なお話をすることが出来、非常に有意義な情報交換の場になりました。

最後に支部の皆様には平素からご尽力いただき感謝しております。今後も引き続き宇部支部獣医師会の活動へのご協力およびご支援の程、よろしくお願い致します。

お知らせ

第5回愛玩動物看護師国家試験及び予備試験の実施について

このことについて、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課及び環境省自然環境局総務課動物愛護管理室から、次のとおり発表がありました。

愛玩動物看護師法（令和元年法律第50号）の規定により、第5回愛玩動物看護師国家試験及び予備試験について、別紙のとおり実施します。各試験の実施に関する事務は、指定試験機関である一般財団法人動物看護師統一認定機構が行います。

なお、令和9年に実施される第6回予備試験が最終予備試験となりますので、ご注意ください。

※ 予備試験に合格した者は、令和9年5月以降も国家試験を受験することが可能



報道発表資料

2026年04月15日

自然環境

第5回愛玩動物看護師国家試験及び第5回・第6回予備試験の実施について

第5回愛玩動物看護師国家試験を令和9年2月14日（日）に実施することとなりましたのでお知らせします。

また、第5回愛玩動物看護師国家試験予備試験を令和8年10月4日（日）に、最終の予備試験となる第6回愛玩動物看護師国家試験予備試験を令和9年2月14日（日）に実施します。

■ 第5回愛玩動物看護師国家試験及び第5回・第6回予備試験の実施について

愛玩動物看護師法（令和元年法律第50号）の規定により、第5回愛玩動物看護師国家試験及び第5回・第6回予備試験を次のとおり実施します。

なお、各試験の実施に関する事務は、指定試験機関である一般財団法人動物看護師統一認定機構（以下「機構」という。）が行います。

<第5回愛玩動物看護師国家試験について>

愛玩動物看護師国家試験

試験期日	令和9年2月14日（日）
試験地	全国7か所 （北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県及び福岡県）
受験申込	令和8年11月4日（水）～同年11月19日（木）
受験手数料	27,200円
合格発表	令和9年3月12日（金）
受験資格	学校等で必要な知識・技能を修得した者（令和9年3月1日までに修得する見込みの者を含む。法施行日より前に修得した者・法施行日において修得中だった者は大臣指定講習会の修了が必要。）、予備試験合格者等

<第5回及び第6回予備試験について>

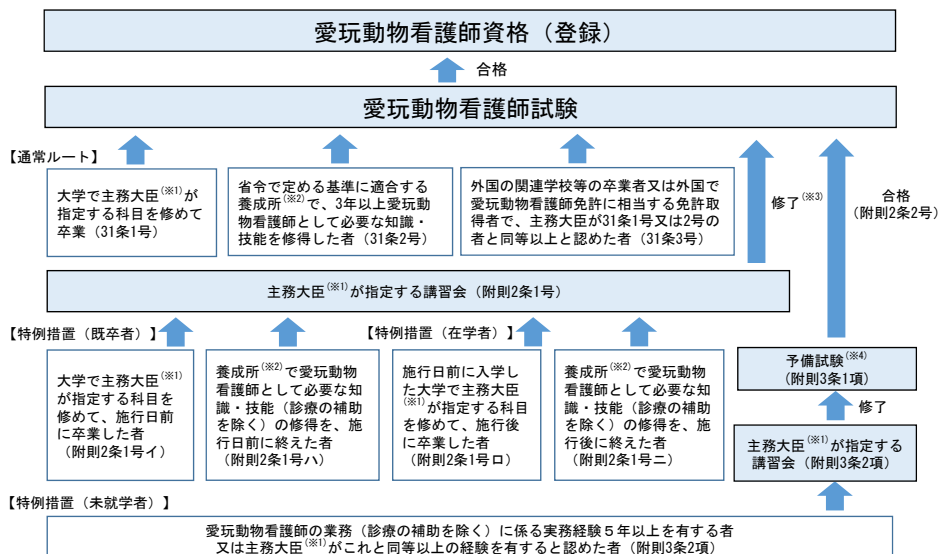
	第5回予備試験	第6回予備試験
試験期日	令和8年10月4日(日)	令和9年2月14日(日)
試験地	全国7か所 (北海道、宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県及び福岡県)	
受験申込	令和8年6月30日(火) ~同年7月23日(木)	令和8年11月4日(水) ~同年11月19日(木)
受験手数料	14,000円	
合格発表	令和8年10月26日(月)	令和9年6月25日(金)
受験資格	実務経験が5年以上の者であって大臣指定講習会を修了した者	実務経験が5年以上の者(令和9年4月30日までに5年以上となる見込みの者を含む。)であって大臣指定講習会を修了した者
備考	-	見込み受験者については、令和9年4月5日(月)から令和9年5月21日(金)までに実務経験証明書の提出が必要

※ 試験に関する詳細情報は機構ホームページ (<https://www.ccrvn.jp/>) (外部リンク) を御確認ください。

連絡先

環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
 代表 03-3581-3351
 室長 石川 拓哉
 室長補佐 後藤 瑞枝
 担当 池下 早

愛玩動物看護師の受験資格について



※1 農林水産大臣及び環境大臣
 ※2 都道府県知事が指定
 ※3 施行日から5年を経過する日までに修了
 ※4 施行日から5年を経過する日までに、毎年1回以上実施

予告

第62回(2026年度)山口県獣医学会の開催

- 日 時 令和8年8月30日(日) ※開始時間は発表演題数により調整
- 場 所 山口県健康づくりセンター2階 第1研修室
(山口市吉敷下東3丁目)
- 部 門 産業動物・獣医公衆衛生・小動物
- 備 考 ①講演要旨の提出 : 令和8年7月24日(金)まで
②発表用ファイルの提出 : 令和8年8月24日(月)まで
③開催要領の詳細は会報7月号に掲載予定

多数の演題を
お待ちしております!



お知らせ

今後の主な行事(予定)

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------------|
| 6月9日 | ・獣医学術中国地区学会幹事会(広島市) | 6月16日 | ・産業動物・獣医公衆衛生合同部会委員会(県獣会館) |
| 6月11日 | ・令和8年度第1回学会運営委員会(県獣会館) | 6月25日 | ・第1回小動物部会委員会(県獣会館) |
| 6月14日 | ・令和8年度定時総会(防長苑) | | |

事務局だより

- | | | | |
|-------|---|--------|------------------------|
| 5月7日 | ・防府支部総会(防府市) | 5月21日 | ・山口大学共同獣医学部長着任挨拶(県獣会館) |
| 5月8日 | ・岩柳支部総会(岩国市)、山口支部総会(山口市)、
宇部支部総会(宇部市)、長北支部総会(萩市) | 5月26日 | ・会報編集委員会(県獣会館) |
| 5月9日 | ・徳山支部総会(周南市) | 7日・21日 | 事業推進会議 |
| 5月14日 | ・令和8年度第1回理事会(県獣会館) | | |

次回編集委員会 6月23日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第781号 令和8年6月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡本町2丁目12番8号)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 中村 滋

印刷 コロニー印刷